



原爆の恐ろしさ
赤平中学校 2年
小出 美憂 さん

私は今回広島へ行き、原爆の恐ろしさ、戦争の愚かさなど色々なことを集会で学び、被災地の悲惨な光景を資料館で実感しました。

私はこれらの事を見て、心の底まで悲しくなりました。なぜこのような悲劇がおこるのだろうか、なぜこんなにも悲しむ人々がいるのだろうか。ですが、悲しんでいるばかりではなく、次の一歩を進もうとしている人達がいいます。その方々のお話を聞くと、核の無い世界・平和で安全な社会をつくらうとして活動しているのがとてもよくわかります。大人の方だけではなく、高校生も署名活動に積極的に取り組んでいました。それらを見てみると、自分も落ち込んでばかりはいられない気持ちになりました。私一人では何もできる力を持つていません。ですがこうしてみなさんに伝えることで、一人でも多くの人が原爆への理解を深め、近い将来に核が無くなる未来を私たちでつくっていったらと思います。

地震や津波などは自然の力で、

私たち人間には止めることはできません。でも核や原発は人間が作ったものです。だから絶対につくった人間が止められるはず。私たちは、ヒロシマ・ナガサキのことで反省すべきだったのです。フクシマの子どもたちが外に出て遊ぶこともできない。そんな悲しい出来事があった良いのでしょうか。今こそ、全てを見直す大切な時です。もうこのような悲劇をつくらないように努力していく時です。日本全体が一つにならなければいけない時なのです。

私が一番心に残ったお話を紹介したいと思います。それは、実際に広島で被爆された曾根薫さんのお話です。被爆時にはものすごい音がし、曾根さんは大柄な学友の後ろにいたので火傷などは無かったです。ですが、防空壕の後ろまで吹き飛ばされてしまうほどの爆風だったそうです。そして次の瞬間には砂煙だらけで、周りには顔面から皮膚が垂れ下がった学友、背中一面焼けただれた先生、近くの川には死体の山…という地獄絵図のような光景を実際に目にしたと言います。曾根さんはきつと、気が狂いそうな気持ちだったと思います。私だったら思い出すのも話すのも嫌なことなのに、曾根さんはあえて私たちに話してくれま

した。それは、この悲惨な事を繰り返してほしくない、そんな思いがあったからだと思います。私は、広島で見たこと、聞いたこと、学んだことを、これからも伝えていきたいです。

中学生からの「メッセージ」

これからも伝えていきたい…私たちの経験した夏

8月4日から7日まで被爆地広島で「原水爆禁止2011世界大会」が開催され、赤平市から2名の中学生が参加して、感じたことや思いを感想文にまとめてもらいました。



平和の鐘にて



「ノーモア・ヒロシマ！」
赤平中央中学校 2年
井波 はな瑠 さん

八月四日から七日までの四日間、赤平派遣団として原水禁広島世界大会二〇一一年へ参加してきました。朝六時半に滝川駅集合。とても楽しみで、眠気も吹っ飛ばすくらいでした。やっと着いた広島はとても暑くて、この暑さで広島に来たという実感がわきました。

着いてすぐに参加した折鶴平和行進では日本中の都道府県の方々がいて、みんな平和を願うために参加しているのだと思うと、とても嬉しい気持ちになりました。次に、被爆六六年核兵器廃絶二〇一一年平和ヒロシマ大会に参加しました。ここで一番印象に残っているのは、被爆者のお話でした。戦争のない時代に生きている私たちには、とうていわかるはずもない苦しきや悲しき、そして怖さを伝えてくれました。

次の日。この日はまず子ども慰霊祭へ参加しました。各グループの代表のあいさつでは、小学生がしているところもありました。平和を願う気持ちに年齢など関係ない、そう思いました。午後には、

メッセージジャーナルで広島に参加しました。ここも参加者は皆子どもで、主催者は高校生の方でした。一人一つメッセージを書いたり、皆で踊ったり、絵本の読み聞かせがあったりなど、とても楽しかったという印象が残りました。次に、赤平派遣団で広島平和記念資料館を見学しました。八時十五分まで止まっている時計やポロボロの服、全身に火傷を負った人の写真などを見て、言葉にならない恐怖や悲しみがわいてきました。六六年たった現在でもこんなに衝撃を受けるのに、この状況が目の前で起こったと考えると、とても恐ろしい気持ちになります。

六日。広島平和記念式典に参加しました。電車も歩道も会場へ向かう人ばかりでした。会場へ着き、立ってお話を聞いてみると、泣いている人をたくさん見かけ、とても苦しくなりました。本当に戦争が無くなって良かったと、心から思いました。

私は日本人の一人として、どんなに怖くても原爆の恐ろしさを学べたことをとても誇りに思いました。これからの世界で二度とこの悲劇が起こらないように「ノーモア・ヒロシマ！ノーモア・ナガサキ！ノーモア・フクシマ！ノーモア・ヒバクシャ！」